

作品 No.171



生きものの“つぶやき”:

### 「春はどこまで来てるかな??」

エッセイ:

ある晴れた涼しい日のこと。

木の上にとまるヒヨドリが1羽。

背筋がシャンと伸びていて、凜々しさが感じられます。

そして、一心にどこかをみつめているようです。

一体、何をみつめているのでしょうか？

気になった私はヒヨドリの視線の先を追ってみますが、何をみつめているのか分かりません。

辺りには花やまだ固い蕾、青々と茂った草が生えています。

そして、気づきました。

ヒヨドリはどこまで春が来ているのか、高い木の上からみていたのだと。

ヒヨドリが春を心待ちにする声が聞こえてくるようです。

私もヒヨドリと共に春の到来を心待ちにしながら。(254字)

#### 生きものの紹介:

ヒヨドリ

スズメ目ヒヨドリ科。主にアフリカとアジアの温帯から熱帯に分布し、日本にも広く分布。昆虫、木の実、花の蜜などを主食とする。高い声で鳴く。多くは留鳥だが、渡りをするものもいる。

#### 撮影場所・日時:

愛知県春日井市落合公園・2020年3月21日

#### 応募者の自己紹介:

1. 伊藤千菜／愛知県立一宮高等学校3年
2. 所属：写真部
3. 将来の夢：生き物に直接関わる仕事

#### 審査委員会からのコメント

木の芽とともに春の訪れを待っているヒヨドリの気持ちが伝わってきます。